

番号	8	名称	区立九段小学校
指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	三番町 16 番地 16
設計者	東京市臨時建設局学校建築課	竣工	大正 15 年 (1926)



### 歴史・文化的特徴

現存する震災復興小学校としては最古であり、また、千代田区に残る唯一のものである。前身である上六尋常小学校は明治 36 年 (1903) に創立されており、周辺では比較的新しい小学校である。創立当時の校舎は関東大震災により焼失し、大正 15 年 (1926) に今の建物が建てられた。

復興小学校は、東京市の設計技師たちが不燃化・耐震化のみならず、避難安全、採光窓、スチーム暖房、水洗トイレなど、児童の良好な教育環境のために最先端の技術を傾注した。経済産業省の「近代化産業遺産群」の震災復興関連遺産として認定されている。

### 意匠・構造の特徴

建物の平面計画はコの字型、小学校に小公園を隣接させるという、震災復興小学校の基本的な配置計画がそのままの形で残っている。

建物は、鉄筋コンクリート造で、校庭に面したファサードや塔屋のアーチに特徴がある。白い外壁に縦長の窓を連立させ垂直線を強調し、最上階の窓に放物線のような尖ったアーチを用い、時計塔でもあるペントハウスでは、アーチ屋根に矩形のドーマー窓が突出する珍しいデザイン。このような表現主義と呼ばれるスタイルは、震災復興小学校建築でも初期に特徴的に見られたが、現存するものは少ない。

### 周辺景観との関係

放物線アーチ窓の校舎は、創建当時より地域のシンボルとして親しまれてきた。公道からは樹木の陰となり、視認性は高くはないが、隣接する公園など創建当時の風景がそのまま残されており、開放的な校庭とともにゆとりと潤いを感じさせる景観を形成している。

狭い敷地だが、公園側に玄関を置き、十分な引きをもって、対称性を表現したファサードを見られるようにしている。